

かながわの本

生誕150年に当たり、著作や書簡から80の言葉を選んだ。病と闘いながらも周りの人々を明るく、元気にさせた秘密に迫った。

〈僕ハモーダメニナツテシマツタ、毎日涙モナク号泣シテ居ルヤウナ次第〉結核性カリエスで寝たきりの生活を強いられ、病状の悪化する中で夏目漱石に宛てた手紙である。

思い切り弱音を吐いた。痛切な言葉の中に畏友を信頼し、胸襟を開いた子規の一面が表れている。

〈世の中をうまくわたるといふ人あれども、うまくわたる人ハいつでもしまひに失敗するかと存候。小生ハどこ迄も正直にやるつもりにて、馬鹿といはるゝ覚

「拙」を守り生きる覚悟も

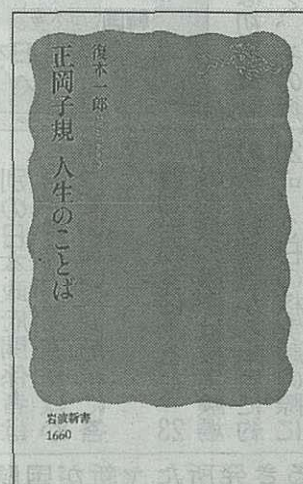
期（悟）に御座候。門下の佐藤紅緑への書簡に、生き方への信念がにじむ。小手先の技巧を弄した要領のよい世渡りを拒絶し、「拙」の人生を選ぶべきだと宣言している。ちなみに漱石の句に〈木瓜咲くや漱石拙を守るべく〉がある。親友同士が拙に生きたいという共通の思いを抱いていたようだ。

「世の中をうまくわたる」ことに執着し、「しまひに失敗する」例は枚挙にいとまがない。子規の言葉をかみしめたい。

著者は神奈川大学などの教授を経て同大名譽教授。没後100年に当たる2002年から「神奈川大学評論」に連載してきた原稿に加筆や削除を施した。

可能な限り文学の領域に踏み込まないようにしたのは「子規の文学に対する言葉ではなく、あくまでも『人生のことば』を聴きたかったからである」と記している。（中篇 弘孝）

「正岡子規 人生のことば」



復本 一郎 著

（岩波書店 ☎03・5210・4054、886円）